

# $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の使用方法について

野田慧太朗

2024 年 2 月 15 日

## 目次

1	はじめに .....	ii
2	文書の作り方 .....	ii
3	これは最初の節 .....	ii
3.1	これは最初の節の最初の行 .....	ii
4	これは次の節 .....	ii
5	数式を書くぞー！ .....	iii
5.1	テキスト用数式モード (インライン数式モード) .....	iii
5.2	ディスプレイ用数式モード .....	iii
5.2.1	プレーン .....	iii
5.2.2	式番あり .....	iii
5.2.3	複数行の数式 .....	iii
5.2.4	複数行の数式 (式番なし) .....	iii
6	表 DAZE ☆ .....	iv
6.1	表 1DAZE ☆ .....	iv
6.2	表 2DAZE ☆ .....	iv
6.3	表 3DZE ☆ .....	iv
7	図を入れてみた .....	v
7.1	図 1 だドン .....	v
7.2	歪んだ図 2 だドン .....	vi

## 1 はじめに

これは  $\text{\TeX}$  の文書の例です。

行を変える時には、このように **1 行空白の行が必要**です。数式も書いてみましょう。

$$S = \int_a^b f(x)dx$$

## 2 文書の作り方

章や節の番号は自動的に振り分けられる。下に例を示す。

## 3 これは最初の節

### 3.1 これは最初の節の最初の行

## 4 これは次の節

`title`, `author`, `date` 命令で（プリアンブルに書く！）文書のタイトル、著者、日付などを設定して、`maketitle` 命令で出力できるぞ！

（`date` コマンドはなくしても意味がないので、`date` とする必要がある。）

## 5 数式を書くぞーー！

### 5.1 テキスト用数式モード (インライン数式モード)

文章中に  $S = a + b$  という形で混ざって出力されます。

積分記号  $\int_a^b f(x)dx$  や和は  $\sum_{i=0}^{10} x_i$  は行間隔を乱さないように狭く出力されます。

### 5.2 ディスプレイ用数式モード

#### 5.2.1 プレーン

文章とは独立してこのように

$$\int_a^b f(x)dx$$

出力されます。

#### 5.2.2 式番あり

文章とは独立してこのように

$$\int_a^b f(x)dx \tag{1}$$

出力されます。

#### 5.2.3 複数行の数式

複数行にわたる数式もこの通り。

$$F(x) = \int_{-\infty}^x f(\zeta)d\zeta \tag{2}$$

$$= \log |\tan(x) + 1| \tag{3}$$

#### 5.2.4 複数行の数式 (式番なし)

複数行にわたる数式もこの通り。

$$F(x) = \int_{-\infty}^x f(\zeta)d\zeta$$

$$= \log |\tan(x) + 1|$$

## 6 表 DAZE ☆

### 6.1 表 1DAZE ☆

月	別名	よみがな
1 月	睦月	むつき
2 月	如月	きさらぎ
3 月	弥生	やよい
4 月	卯月	うづき

### 6.2 表 2DAZE ☆

試料	条件		備考
	温度	圧力	
1	10	3	ちょっと悪い
1	20	6	結構いい
3	40	1	かなり悪い

### 6.3 表 3DZE ☆

表 1 月の別名

月	別名	読み仮名
1 月	睦月	むつき
2 月	如月	きさらぎ

日本では、表 1 に示すように月の別名が定められていて、よく用いられます。